

# 本校「福祉系列」が新聞で紹介されました

平成29年5月21日（日） 中日新聞 尾張版

許諾番号 20170525-19574

## 尾張版



SとNの詩（吸引力）部分  
野田 秀樹



## 杏和高（稲沢市）

軍手を使って表した手話の「あいさつえお」。手話を学ぶ手作りのボードの前で、生徒たちが笑顔であいさつを交わす。

稲沢市の杏和高校で介護福祉士の資格取得を目指す「福祉・サービス系列」専攻の三年生六人。週一回、少人数でさまざまなテーマで福祉を学ぶ。

この日は担当の杉村清孝教諭（も）が介護職の人材不足について書かれた新聞記事を教材に、「なぜ増えないのか。どうしたら増やせるのか」と質問。「きついイメージがある」「仕事の内容が知られていない」「日本人は人と関わるのが苦手なのか…」など意見

## 福祉教育に熱



# 介護やりがい感じて

手話を学ぶボードの前で会話を練習する生徒たち＝稲沢市の杏和高校

が出た。

杉村教諭が解決策を問うと「明るい面を感じてもらいたい」「身近なこととして捉えてもらえたら」「給料などの待遇を上げて」など声が上がった。

杏和高は総合学科の高校として二〇〇五年に開校。国語や数学などの共通教科のほか、二年から「国際理解」「ビジネス」など七つの専門的な系列に分かれ、履修科目を選択して授業を受ける。

中でも福祉・サービス系列には力を入れる。三年は校外実習がメインで、近郊の高齢者施設などで利用者との会話したり、食事の介助を手伝ったり。生徒が計画したレクリエーションを開催し、施設の利用者に楽しんでもらうこともあった。

三年の岡田優希さん（こ）は「介護の仕事をするには、どんな技術と考え方が必要なのかを教わった」。三年の松本彩花さん（も）は「常に自分が介護を受ける立場に立ち、仕事ができるようになりたい」と熱く語った。

手話通訳者など専門家を講師に招き、障害者理解を深める教育も実践。生徒たちは皆、あいさつなど手話で日常会話ができるレベルまで上達している。

杉村教諭は「少人数制の授業だからこそ主体的に取り組める。高齢者との交流を楽しみ、介護の仕事にやりがいを感じてほしい」と話した。

（花井康子）